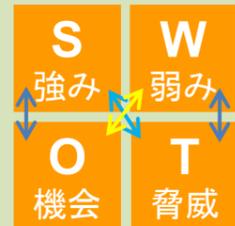


- ② まちづくりの方向性を踏まえ、SWOT 分析による事業の抽出
- ③ SWOT 対象図に事業を抽出するとともに該当する地点を図面に落としていきました。



- ①SO「S:強み」×「O:機会」(活用・積極姿勢)
 - ・「機会」に応じた「強み」の活用策
 - ・組織や地域の「強み」を生かして、「機会」を勝ち取るための積極姿勢の施策
- ②ST「S:強み」×「T:脅威」(改善・差別化)
 - ・「強み」を生かした「脅威」の解消策
 - ・組織や地域の「強み」を生かして、「脅威」を招かないための差別化等の施策
- ③WO「W:弱み」×「O:機会」(改善・弱点強化)
 - ・「機会」を生かした「弱み」の改善策
 - ・「機会」を掴むために「弱み」を補強する弱点強化の施策
- ④WT「W:弱み」×「T:脅威」(回避・防衛、撤退)
 - ・「脅威」に対する「弱み」の回避策
 - ・「脅威」を招く要因となり得る「弱み」に対する防衛、撤退の施策

1班(わさだ大好き班)



抽出された事業

- ①無縁墓地の利活用 (SxO)
- ②道路拡幅(田尻→八幡)道路整備の促進 (WxO)
- ③高齢者防災対策 (WxO)
- ④空き家・空白化団地の再活用で多世代住居への変換 (WxT)
- ⑤わさだ地区専用のコミュニティバスの運行 (SxO)

2班(ななせ班)



抽出された事業

- ①農地の保全・七瀬の公園整備 (WxO)
- ②道路整備拡幅事業、災害時の学校周辺(敷戸など) (WxT)
- ③若者(学生)を対象にした創造支援事業 (WxO)
- ④道路整備(賀来～庄の原拡幅・賀来橋の架け替え) (WxO)

3班(西寒多ふじ班)



抽出された事業

- ①地震対策推進事業 (WxT)
- ②地域都市の活性化(市の補助金等の充実) (SxT)
- ③バリアフリーの推進 (SxO)
- ④育児後の女性(男性)職場復帰促進事業・補助金事業 (SxT)
- ⑤人口を増やす (WxO)

- ④まちづくりのアイデアを導き出した考案者が班のメンバーと共に話し合い事業を導きました。
- 成果発表:班の導いた事業の主要なポイントを発表しました。

【1班(わさだ大好き班)】
300年ほど前からある無縁墓地が、住宅街の真ん中にそのまま残っていて、所有者を調べてもわからない状況です。この土地を自治会で利用するために公告を行い、自治会で管理・活用することができるになれば住環境の改善にもつながると考え、事業を提案しました。次に、道路整備の拡幅や橋の整備といった道路整備の促進と災害発生時など避難に係る施設の整備や体制の充実に向けた高齢者防災対策等の事業も提案しています。それから空き家、空き地団地の再活用ですが、大分市が持っている空き家等の情報を活用し、子どもが親と近居するための情報提供ができないかと考えています。手法としては、様々あるのですが、自治会でやれないかと思っています。最後に、植田地区専用のコミュニティバスの通行についてです。これは高齢化に伴い、移動手段の確保が困難となった人への支援事業です。松が丘団地には、以前トキハイナストリーがあったのですが、10年前に撤退してしまい、買い物するところが有りません。本当に深刻な問題になっています。こういう問題をいまから解決して行ったらいいのではないかと思います。

番号	事業名	SWOT				コメント
		S	W	O	T	
①	無縁墓地、土地の利活用	●	●	●	●	・無縁墓地の土地の所有者が不明なので公告 →所有者がでてこなければ自治会が管理できる ・草木が生い茂って住環境が悪いので改善したい ・ため池は安全のため埋立て公園にしたい
②	道路の拡幅(田尻→八幡)道路整備の促進	●	●	●	●	・八幡田と田尻の間にある田尻橋の整備 →何年も前から国や県に要望は出している
③	高齢者防災対策	●	●	●	●	・敷戸団地などはできて46年以上で、住民のほとんどが高齢者 →エレベーターなどがなく不便が多い ・多世代交流を図り、災害時に助け合える関係を図る ・防災組織の充実を図る必要がある →人員が少ない ・避難場所の公民館が建て替える必要がある
④	空き家・空白化団地の再活用で多世代住居への変換	●	●	●	●	・団地ごと高齢化が進んでいて、空き家が多くなっている ・自治会活動もできにくく、店も撤退して生活が不便になる →新しく団地を造るより、再開発で人を集める事業が必要。 ・高齢者のなかには持ち家が重荷になる人もいる。 →松が丘などは、すくには売れない ・空家を活用して、親夫婦と子ども夫婦が近くに住めるようになるのでは か
⑤	わさだ地区専用のコミュニティバスの運行	●	●	●	●	・高齢者の方が快適にくらせるか?買い物などに生活に支障をきたしている現実もある ・植田にコミュニティバスのような物走らせた(ホルルやディズニールンドで走っているようなバス) →買い物だけでなく、多世代の交流にも使えるのでは ・バスは多いけれど、大きい道路しか走っていない ・民間事業だけでは厳しい、行政のサポートは必要 ・ショッピングエリア→居住地(高齢者が住む)

【2班(ななせ班)】

まず、農地の保全。耕作放棄地が非常に増えています。例えば、トキハイナストリーの横で耕作放棄地があったらAランク、中山間部の農地についてはCランクといったかたちでランク付けしたものを優先的にやっていく。そうすることで耕作放棄地が減り、有意義に使える農地が確保できるのではないかと考えている。また、七瀬の公園に焼肉が出来るコーナーやプール等の施設をつくるなど、若者が子どもを連れて遊びに行けるような環境づくりをしたらいいいのではないかと思います。次に道路整備について、2点出ております。鷲野の方では日本の有事のとき、弾薬庫が一番先に狙われると考えると、避難する道路が必要である。有事の際に速やかに避難が出来るよう道路の整備、拡幅をして頂きたいということです。それから道路整備で賀来・庄の原線の拡幅、賀来橋の架け替えをお願いしたい。夕方と朝に渋滞がひどく整備が必要である。それから若者を対象とした創業支援事業、最近では若い世代が創業するような人が非常に少なくなっている。若者創業者を支援していくことによって若者が事業を起こしやすいような環境が出来る。例えば40年代にできた団地等の空き家、空き地を安く借りられる仕組みを作ることによって、創業をしやすくなり、そして空き地、空き家対策もできるのではないかと思います。

番号	事業名	SWOT				コメント
		S	W	O	T	
①	農地の保全・七瀬の公園整備	●	●	●	●	・耕作放棄地が増加している →土地の利便性などを考慮して優先順位をつけ、管理すれば耕作放棄地は減っていくのでは ・若者を種田に残すため、七瀬の公園を子どもを連れて遊びに行けるような環境に整備する →焼肉ができたり、プールがある等
②	道路整備拡幅事業 災害時の学校周辺(敷戸など)	●	●	●	●	・鷲野地区 ・災害や有事の際の速やかに避難する道路が必要 →拡幅、整備の実施
③	若者(学生)を対象にした創業支援事業	●	●	●	●	・若い世代の創業支援 →40年代にできた団地の空家など安く貸すなど ・空家対策にもなる
④	道路整備 (賀来～庄の原拡幅・賀来橋の架け替え)	●	●	●	●	・賀来から高速道に上っていく車が多い(市道大分港賀来線) →賀来橋から児童養護施設(森の木)まで、小野鶴橋周辺が非常に混む →道路整備が必要である

【3班(西寒多ふじ班)】

地震対策の推進について、団地内には昭和56年5月以前の古い耐震基準で作られた住宅が多くあります。建て替えや耐震補強工事を行わなければ、東南海地震が来ると倒れる可能性が非常に高く、熊本地震であったように二階が落ちて一階に住んでいる人が亡くなることも危惧されます。空き家対策も含めて上手く対策ができないかと考えています。次に地域行事の活性化です。運動会やお祭り等では近辺の企業の協賛金がなければ成り立たないのが現状です。地域行事を維持するためには市の手厚い補助金が必要です。次にバリアフリー化、公共施設では行なっていますが、民間はコストが掛かり進んでいない。これを早急にすべきです。次に育児後の女性の職場復帰支援事業、育児休暇、出産休暇等、いろいろ制度化されていますが、中小企業では進んでいない、市や県の補助金を活用するなど、女性が働きやすい職場を作る対策が必要だと思います。最後に植田地区は、一部市街化調整区域で原則、家が建てられません。市街化調整区域の廃止とか、緩和等の形で、家を建てられない地域でも家を建てられる地域にすべきではないかという意見です。

番号	事業名	SWOT				コメント
		S	W	O	T	
①	地震対策推進事業	●	●	●	●	・多くの古い家(昭和56年5月以前に建築)が今後起こるであろう地震に対して耐震補強などされていないのが問題 →大分市の耐震診断、耐震工事の補助金が活用されていない ・あまり管理されていない空家も多く、倒壊の危険もある →権利の問題で危険住宅の除去が難しい ・空き家対策と耐震対策を兼ねて住宅の譲渡と新築への建て替えを促進する →行政の力も必要
②	地域都市の活性化(市の補助金等の充実)	●	●	●	●	・安心安全なまちづくりには、地域コミュニティの充実が必要 →地域の運動会、お祭り、ふれあい行事など ・実際は企業の協賛金を得て運営している →大分市からの補助金が増えれば
③	バリアフリー化の推進	●	●	●	●	・障害者、高齢者の生活(福祉)を充実させる ・歩道の段差を無くしたり、高校にエレベーターの設置など ・地域の自然を豊かにできれば
④	育児後の女性(男性)職場復帰促進事業・補助金事業	●	●	●	●	・女性の職場復帰の促進、補助金事業 ・1番手のかかる時期は親がしっかり育児ができるような大分市からの援助があれば ・子どもが成長すれば預けられる、小中一貫校のような充実した教育機関がある ・少子化の抑制につながるのでは
⑤	人口を増やす(市街化調整区域を外す)	●	●	●	●	・植田地域は住環境が良い →植田地域にある市街化調整区域を解除し宅地化へ